

2024年 8月 11日

2024年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名.....自立援助ホーム
ホーム名.....マルコの家
代表者・役職名 氏名 野原 知子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

子ども達の人生の糧への援助

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

前施設長の小田は元々里親をしており、自信がなく働く事も困難な上、親族の支援無く社会に出なければならぬ子ども達を何人も見て来てきました。一緒に生活しながら社会に出るまでの準備の期間を過ごす場所を作りたい、という2010年7月に開設しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

一つ大きな目的としては飛行機に乗せてあげたいという事がこの事業の目的になります。その為に旅行先はいくつかに絞られました。二泊三日の日程の中で日本のメジャーな繁華街である大阪の街を楽しみたいという事から、一日目は大阪となりました。二日目は京都に移動し、着物や袴を着て思い出だけでなくその文化に直に触れてみたいという事からこの地を選びました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

大阪の街では常識的な範囲で昼だけでなく夜の街も歩き、活気を感じることができました。最初はその活気に気後れしていた様ですが、事前に自分たちで調べていたお店を発見し興奮していました。道頓堀のほとりを歩き、立ち込める煙に食欲をそそられ、まるで縁日のような非日常的な空間に目を輝かせていました。京都では着物に着替え、「暑いから撮影だけ。」と言っていたのですが、その町並みに溶け込んで楽しみ、人力車に乗る事ができました。始めは恥ずかしがっていましたが、お姫様然として人混みを抜ける体験は、写真だけでなく記憶にも刻まれたと思います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

行く前は飛行機への不安から、覚悟を決めなくてはとても乗れないとか、今回限りにしたいと言う子がいいましたが、帰路に着きながら聞いた感想では「いつかは友達と沖縄に飛行機で行ってみたい。」とってくれました。この言葉を聞いたことが最大の成果だと思います。同世代と比べて圧倒的に経験が少ないため、何か機会があっても率先して「私も」と言えないのだと思います。与えられた機会が少ないから自己決定が苦手です。それが旅行になると「せっかく(大阪まで)来たから」と自ら電車を調べ、積極的に目的地に向かう事ができる。誰かに決められたことだけをするのではなく、主体的に動くことができたことも大きな成果だと感じました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回は主体性や個々の希望、自由度という事を念頭に子ども達と細かな日程を作成しました。変更ができるよう時間にも余裕を持たせた結果、とてもバランスよく実施できましたが、今回、中心となって皆の意見をまとめてくれる子がおり、彼女に助けられた部分も大きかったと感じています。子ども達が主体となって大人と相談しながら旅の計画を立てられる事が、今後も課題です。

今後のどこかの機会に小規模ながらも、子ども達がキャンプや旅行の計画を立て、実施後は、次に繋がる反省と課題を見つけることまでできたら良いと考えています。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

